

2022 年度事業 8 月末 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年10月5日
- 事業名 : 森の担い手育成と森・人・地域社会を豊かにする事業
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人地球と未来の環境基金
- 実行団体 : 一般社団法人ディバースライン

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
アウトプット No.1: 現在確保済みの 2ha の山林に壊れない作業道が建設される。	壊れない作業道の設計方法の習得とバックホーの技術向上と作業道の距離数。	壊れない作業道の設計方法の習得とバックホーの技術が向上し、2ha の山林に壊れない作業道約 700m が建設され、持続的に自伐型林業施業が可能になる状態。	事業 2 年目終了時	700m の壊れない作業道建設済み。講習生向けに作業道講習を 2 回、メンバー向けに作業道講習を 1 回実施。当初全くバックホーの操作ができなかったメンバーも日々の施業でバックホーの技術が身についている。	1
アウトプット No.2: 担い手育成継続実施のための補助金・助成金活用による資金が確保される。	林業に必要な資格取得と知識講習の開催、人件費など、講習に必要な資金の確保。	年間 100~200 万の補助金・助成金活用による資金を確保できる状態。	事業終了次年度	事業終了次年度に向け、補助金・助成金の情報収集をしながら、自治体との関係性を深めたり、民間企業に協力を得られるか働きかけている。	4

<p>アウトプット No.3：当団体の活動が複数のメディアで発信、掲載され、メディア関連企業と新しいネットワークが構築される。</p>	<p>スポーツ系メディア、林業系メディア、アウトドア系メディア、カルチャー系メディアなど、ファッション系メディア等、幅広いジャンルでメディア関連企業とネットワークを構築。</p>	<p>20 社程の幅広いジャンルのメディア関連企業とネットワークを構築している状態。</p>	<p>事業終了時</p>	<p>・某新聞 2社 で活動が紹介される。新聞掲載の反響は大きく、活動を一気に知ってもらうことができた肌感がある。 今後、某テレビ局でも活動について放映予定。 新たに管理が始まった森林は都市公園であるため、行政からメディアにプレスリリースを行ってくれた。</p>	<p>2</p>
<p>アウトプット No.4：林業施業に必要な機材と研修に必要な安全用具が確保される。</p>	<p>林業施業に必要な機材と研修に必要な安全用具が確保されることと、事業が開始されること。</p>	<p>軽トラック 1、チェーンソー4、刈払機3、バックホー1、林内作業車1、林業用ヘルメット13、チェーンソーパンツ13。</p>	<p>事業1年目</p>	<p>確保済み。</p>	<p>2</p>
<p>アウトプット No.5：当団体が企業、メーカー等からスポンサードされ、広告費等の資金が確保される。</p>	<p>環境に配慮した商品を取り扱うメーカーや環境保全に取り組む企業等からスポンサードされること。</p>	<p>物品提供に加え、スポンサー企業からの広告費等の資金が確保される状態。</p>	<p>事業終了時</p>	<p>・団体としてスポンサードされているメーカーや企業の数：1社 ・スポンサードの内容：ワークシューズ、グッズなどの物品提供 ・某アウトドア店で、当団体の活動を周知するためのイベントを開催することが決定。研修開催の広報としても活用させてもらえるとのこと。</p>	<p>2</p>

<p>アウトプット No.6：事業と並行して、半林半 X の「半 X」の収益を、当団体メンバー（アスリートやアーティスト等）の特性や強み、活動内容を生かした事業で確保し、事業資金が確保できる組織基盤が構築されている。</p>	<p>アルパインクライマーによるクライミング技術を生かした特殊伐採等の造園事業を行い収益につなげる。 アウトドア体験プロデュース等で森林空間を利用した事業を行い収益に繋げる。 森林空間を利用し、自然療法のアーユルヴェーダセラピスト資格を生かし、心と体を健康にする事業で収益につなげる。</p>	<p>団体メンバーの特性や強み、活動内容を生かした事業を行い、確保した収益が事業資金となり循環する状態。</p>	<p>事業終了時</p>	<p>メンバーが半 X として行っている事業 ・特殊伐採等の造園業 ・間伐材を使ったワークショップ開催で多くのイベントに出店 事業 1 年目終了時点で事業 2 年目の自己資金 330,000 円確保済み 事業終了時に向け、森林空間を生かした事業展開の段取りを組んでいる。</p>	<p>2</p>
<p>アウトプット No.7：アスリート、アーティストとの新たなネットワークを形成し、影響力のあるアスリート等も巻き込み、現メンバーの影響力も増している。</p>	<p>影響力のあるアスリート等：SNS フォロワー数 1 万人以上のアスリート等</p>	<p>共に活動する団体メンバー：20 名程度 団体メンバーの SNS フォロワー数：全メンバー 3000</p>	<p>事業終了時</p>	<p>SNS フォロワー数を着実に増やしている。 ・メンバーの SNS フォロワー数：天野 2070、高橋 1825 ・団体の SNS フォロワー数：600 ・某インフルエンサーの方(SNS 総フォロワー数 20 万人以上)と地域の農業と林業という視点から、本年度の研修に協力してもらうこととなった。</p>	<p>2</p>

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
研修での、検温、消毒の実施。マスクの徹底。健康チェック表の記入。

③ 広報（※任意） ※メディア名は非公開でお願いします

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2021年8月10日掲載	某通信社オンライン(活動紹介)
2021年8月掲載	某通信社の月間冊子(活動紹介)
2021年10月発売予定	某雑誌(スノーボードの活動と併せて活動紹介)
2021年10月から執筆	某ウェブサイトコラム(全3回)
2021年2月掲載	某ウェブサイトインタビュー掲載(活動紹介)
2021年2月配信	YouTubeで当団体の活動にフォーカスした映像が配信
2021年2月配信	YouTubeで当団体とメンバーの年間通した活動にフォーカスした映像が配信
2022年5月生配信	某ラジオ電話出演
2022年7月	某Webメディア掲載(活動紹介)
2022年8月25日	某新聞 記事掲載
2022年9月2日	某新聞 都市公園の森林整備開始の記事掲載
2022年9月	某チャンネルでラジオ配信
2022年9月配信	某ケーブルテレビにて活動の様子配信決定

2.広報制作物等

2021年9月

令和3年度研修開催における案内Webページ制作

2022年7月16日

活動紹介のために制作したショートムービーを「自伐フォーラム 未来を走る林業～森ではたらき、森であそぶ～」で上映。フォーラム登壇者として参加。

2022年9月

令和4年度研修開催における案内Webページ制作中

3.報告書等

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業全体の進捗状況	高橋紗智	一般社団法人ディバースライン代表理事
内部	森林管理の進捗状況	高橋龍正	一般社団法人ディバースライン社員

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況 ※会社名や個人名、市の名前、担当部署は非公開でお願いします

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
山林管理面積	新たに任される山林管理面積	合計 10ha となる状態。(年間収入 1 人約 100 万円になるための面積の目安)	事業終了時	初期状態 2ha の山林管理面積から、新たに 8ha 増え、合計 10ha の山林管理面積を任せられている。達成時期は事業終了時と定めていたが、事業 1 年目で達成することができた。
自伐型林業新規参入者	新規生業モデルの数	研修参加者から自伐型林業新規参入者が生まれ、生業モデルが構築される状態。当団体メンバーも生業モデルとなる状態。	事業終了時	新規参入者は 2 名。現在、技術習得中のため、事業終了時までに達成を目指す。
森林資源の活用先	材の種類別販路の数	材の種類別の販路が確保され森林資源が高付加価値化できている状態。	事業終了時	木材の活用として、地域の小中学校に対して間伐材で製作した救急箱を寄付するプロジェクトの計画が進行中。某企業と共同のプロジェクト。また、針葉樹と広葉樹の新規販路も確保。達成時期は事業終了時と定めていたが、事業 1 年目で達成することができた。事業終了時に向けて販路をさらに拡大していく。

行政担当者	行政担当者等の関係人口数	行政担当者より必要なアドバイスを受けられる関係が構築される状態。	事業終了時	市長をはじめ各課の担当者など、約30名との関係人口を構築している。また、行政担当者の方からアドバイスももらえるまで関係性を構築した。達成時期は事業終了時と定めていたが、事業2年目で達成することができた。事業終了時に向けて関係人口をさらに増やし、より良好な関係性を構築していく。
-------	--------------	----------------------------------	-------	--



① アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>短期アウトカムの進捗状況に記載の通り、全アウトカムの達成時期を事業終了時と定めていたが、現時点で大方達成できたため、目標値を上回っての達成の見込みがある。未達成のアウトカムの「生業モデルの構築」のためには、担い手育成資金の確保が必要となるため、アウトプット No.2 の「担い手育成継続実施のための補助金・助成金活用による資金が確保される」やアウトプット No.5 の「当団体が企業、メーカー等からスポンサードされ、広告費等の資金が確保される」ことを目指し、各方面に働きかけていく。事業終了時まで全短期アウトカムの目標値を上回る達成を目指す。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	・事業の運営管理体制（進捗管理の仕組み、事業への人員体制、意思決定過程の整理など）の計画に問題はないか。	問題なし	・運営管理者、現場管理者、団体メンバー、担当者ごとに業務を分担し、情報共有、意思決定しながら、負荷なく事業計画を遂行できているため、運営管理体制の計画に問題なし。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	計画どおりのアウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か。 事業の進捗によって必要な実施事業の見直しが行われているか。	自治体連携	近隣2自治体のうち一自治体にアプローチした当初は、あまりコミュニケーションできなかった。 もう一つの自治体に対し、研修実施による人材育成やモデル林の整備を通じて、また、何度もアプローチすることで、円滑にコミュニケーションできるようになり、自治体、民間両方から施業管理を任せられるようになった。 実績がない中で、休眠預金を活用して研修していることを、自治体から評価されたと考える。自治体が森林を管理すべきだが、限界があり、管理不足の森林を、当団体のようなフットワークの軽い団体が施業していることを評価いただいている。
組織基盤強化・環境整備	事業の進捗に合わせて、成果が発揮できるような組織・人員体制をとることが出来ているか	人材確保が順調に進んでいる。	1年前に参画したメンバー1名が、順調に成長し、また、研修などで既存メンバーも技術力を向上させ、組織力が強化されている。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例 ※会社名や個人名、市の名前、担当部署は非公開でお願いします

行政や地域の応援者との関係人口の増加と良好な関係性の構築が最大要因である。

山林管理面積確保の要因：行政担当者の方が当団体の活動に共感してくれ、地域で森林管理に困っている森林所有者とつないでくれたことがきっかけ。商工観光課には、直接窓口へ活動の周知をしに行った。

森林資源の活用先確保の要因：活動に共感してくれた地域の方から、某企業関係者の方を紹介してもらったことがきっかけ。間伐材の地産地消と森林整備による環境保全活動に繋がる活動として、共同でプロジェクト進行を計画している。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

事前評価時には、行政担当者より必要なアドバイスを受けられる関係が構築される状態を想定していたが、森林経営制度のスタートに合わせて、行政でも自伐型林業の取組を強化していきたいという動きがでてきた。自伐型林業事業体が当団体しかいない地域でこのような動きに発展していることは大きな成果である。しかしながら、この動きに対応するためには、担い手となる林業事業体が少ないため、育成が必要となってくる。そこで、当団体が地域の自伐型林業のリーダーとなり、林業の担い手育成に力を入れていき、地域の林業振興に貢献したいという思いを伝えたところ、前向きな姿勢を示してくれた。担い手育成の資金の確保や、他団体の参入補助ができるような環境を目指す。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</p>	<p>最初は対面で案内していたが、コロナ禍が深刻になり、情報発信や関係者とのコミュニケーションを工夫した。具体的にはオンラインイベントでの広報、SNS やテレビの取材などのメディアでの発信により、円滑に行った。</p> <p>民間だけでなく、自治体と積極的にアプローチすることにより、自治体、民間両方から施業管理を任されるようになった。実績がない中で、休眠預金を活用して研修していることを、自治体から評価されたと考える。自治体が森林を管理すべきだが、限界があり、管理不足の森林を、当団体のようなフットワークの軽い団体が施業していることを評価いただいている。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

研修やフォーラム、体験会開催に加えて、より細かい技術指導や自伐型林業のノウハウを教育し、現場に立てるようになるために必要な担い手育成資金の確保に注力したい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

